

優秀賞

ヘアドネーションをしてみて

岡山県 琴浦西小学校 四年

橋本 夢

「夢ちゃんのかみの毛はきれいだから、ヘアドネーションしたらいいかもね。」

と1年生の夏の日にお母さんが言いました。ようち園のころからのぼしていた私のかみは、かたぐらいまでのびていました。私は、初めてヘアドネーションという言葉を知りました。

私はお母さんに、

「ヘアドネーションってなに？」と聞きました。

「病気や事故でかみの毛が抜けた人が着ける、医りょう用のウィッグを作るのに、使うんだよ。」

と、お母さんは言いました。私は話を聞いても意味がよくわかりませんでした。

それからしばらくして、私の大好きなおばあちゃんが、大変な病気になってしまいました。おばあちゃんは病気を治すために入院して、点てきで薬を体の中に入れました。すると、薬の副作用でおばあちゃんのかみの毛が抜けてしまいました。私はとてもびっくりして、悲しくなりました。

おばあちゃんは、医りょう用ウィッグを着けるようになりました。おばあちゃんはウィッグを着けて、いつものように買い物に行ったり、私のたん生日にも来てくれました。私はそのとき初めて、ヘアドネーションの意味がわかりました。

そして私は、自分のかみの毛を大切にのぼそうと思いました。バランスよく食事をして、休みの日でもなるべくかみを結ばないようにしました。かみを洗ったら、すぐにドライヤーでかわかします。夏は何度もくじけそうになったけれど、おばあちゃんや病気になった人たちが少しでもよろこんでくれるならと思い、がんばってのぼしました。

おばあちゃんはがんばって病気の治りょうをしたけれど、私が2年生の冬に天国へと旅立ってしまいました。私はつらくて、悲しくて泣きました。それから私は、おばあちゃんのことを思いながら、かみをのぼし続けました。1年生のときにはかたまでだったかみの毛は、3年生のころにはおしりまでのびました。

そして今年の3月に、約4年のぼしたかみが30センチ以上になり、切れる長さになったので、ヘアドネーションの団体に寄付することができました。

私は、もう一度ヘアドネーションをするために、再びかみをのぼしています。病気になった人たちが、私のかみの毛で作ったウィッグを着けて、日常の生活を送ってもらえたらうれしいです。

私は小学生でまだ何もできないけれど、人のためにできる小さな親切を、少しずつやっていきたいと思っています。